

ぎふ防災減災フェス 2026 に岐阜県代協と共に出展

～自然災害への備えの重要性を喚起～

日本損害保険協会岐阜損保会(会長：有村暢晃・損害保険ジャパン株式会社 岐阜支店長)は、9月17日(木)に「ぎふ防災フェス 2026」の「岐阜防災減災シンポジウム」にブース出展し、岐阜県損害保険代理業協会とともに自然災害への備えることの重要性について周知・喚起を行いました。

「ぎふ防災フェス 2026」は、災害時に被害を軽減させるために個々の防災意識に加え、地域と連動する「地域防災力」が必要との考えのもと、いざというときに「地域防災力」を発揮するための「防災岐阜モデル」の構築を開催目的としています。9月17日(木)から20日(日)に岐阜新聞社および岐阜放送主催でJR岐阜駅周辺の岐阜シティ・タワー43、じゅうろくプラザ、駅前の信長ゆめ広場他で開催され、シンポジウムや防災企業の展示がありました。

当会が出展した17日(木)のシンポジウムでは約200人の来場者があり、第1部では能登の地元商店主による「能登半島地震から学ぶ」と題した基調講演が行われ、第2部では「防災減災岐阜モデル構築に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

シンポジウム会場入口付近に設置された当会のブースでは、当会のホームページに掲載している自然災害に対する備えの重要性を啓発する動画を放映しながら、来場者にその対策の1つとして損害保険が重要であることを紹介しました。

来場者からは、「自然災害への備えの重要性を再認識した」「いざというときに損害保険は重要」といった声が聞かれました。

全国各地で大雨による災害が頻発している昨今、自然災害への備えの重要性に対する認識が深まり、防災意識の一層の向上につながったものと考えられます。

当会では、今後も防災・減災および損害保険の普及促進・啓発に取り組み、地域の安心・安全に資する活動やイベントを支援してまいります。



＜開演前のシンポジウム会場の様子＞



＜損保協会ブースの様子①＞



＜損保協会ブースの様子②＞